



## 企画者より

木島平アート部 丸山さやか



秋祭りの頃、村の小学生に「お祭り行くの？」と聞かれた。「どうかな。」と答えると、「村民なんだから、行かないとだめだよ。」と言われた。思いもよらぬ言葉に驚いたものの、納得できなくもなかった。県民性、ゆるキャラ、ご当地〇〇の言葉を頻繁に耳にし、NHK連続テレビ小説の中では〈地元にかえろう〉と繰り返し熱唱されていた。いま地域、帰属というものに関心が高まっていることは誰の目にも明らかだろう。幼いころの私達に、村民だから村の祭りに行かなければという意識が無くて、今の子どもたちにはあるということも成立し得るだろうという気がしてきた。

インターネット端末機の普及で、離れた地域の様子について容易に知ることができるようになつた。かつては本やテレビを介して、抽出された国や民族的特徴などに触れていたのに対し、個人レベルでの接触が増し、自分たちとの違いを肌で感じる機会が多くなつたことも関係しているのではないか。これを書いている私自身も、この年末年始にたくさん的人がフェイスブックにそれぞれのお正月を紹介している中で、日本、アメリカ、フィリピン、フィンランド等の年末年始の様子を平行して見ることを体験したばかりである。

これに似通つた社会の変化として、産業革命後のヨーロッパを思い浮かべた。農村の中でよく知つた人とだけ接する生活から、鉄道で都市へ働きに出て、全く知らない人と交流するようになり、自分、他者との違いに注意が向くようになった時代。自分はどこに帰属するのか？という問いかけが起つり、民族性を意識するようになったと思われる。

異なるルーツをもつ人と出会うことにより、自己または帰属を意識するようになった時期という現在との共通性を見つめ、今回のコンサートでは、テーマを「かえるところ」とし、ヨーロッパ、その周辺で、産業革命後から20世紀初めに活動した作曲家の作品を取り上げることにした。

これら3名の作曲家たちはそれぞれ、一言で故郷とくくることができないような複雑な背景を持っている。オーストリア・ハンガリーアーク帝国時代に生きたポッパーはハンガリー出身だがウィーンを介してヨーロッパで活躍した。ミャスコフスキイはポーランドで生まれたがロシアで青年期を迎え、ロシアの民族的題材を取り込むと活動した音楽家たちのいたペテルブルク音楽院で学んだ。フランクは主に故郷ベルギーではなくパリで活動したが、フランス国籍を得るまで音楽院で教えることができず、異邦人としての立場も味わつた。教会のオルガニストという肩書から、作品には聖書の中で重要な意味を持つ記号がよく現れ、自身もクリスチヤンであったことから國、民族などを超えた教会に帰属の意識を持ったといふことも考えられる。

これらの作曲家のこころのかえるところはどこであつただろうか。  
そして現在この日本の一端に住む我々のかえるところはどこであろうか。

演奏者の2人はシューネスペルクの音の響きについて、「上から音が降ってくるようだ」と語っている。その響きの中で、ぜひ演奏してみたい曲として、今回の3曲をあげられた。皆様には曲、そして「音」をお楽しみいただければ幸いである。  
ごゆっくりお楽しみいただきたい。

## チエロ&ピアノコンサート 2014

### 「かえるところ」

チエロ：原香恋 ピアノ：武井純子

場所：木島平村ホテルシューネスペルク（0269-82-4600）

日時：3月16日（日）

13:30 受付開始

14:00 1部開演

14:30 ワークショップ

14:50 休憩

15:10 2部開演

15:50 終了

## 演奏者紹介



原香恋（はら・かれん）／チエロ

中野市出身。3歳よりチエロ指導者の父・長瀬冬嵐の手ほどきによりチエロを始める。京都市立芸術大学音楽科卒業。在学中に2年間シドニーへ留学し、M・ゴルバトフ氏に師事。2009年よりスズキメソードのチエロ指導者としてメルボルンに赴任。2011年に帰国し、才能教育研究会（スズキメソード）の指導者として後進の指導に当たると同時に演奏活動を行つてゐる。秋田県大仙市大曲新人音楽祭コンクール入選、万里の長城杯コンクール入賞等、多数受賞歴。



武井純子（たけい・じゅんこ）／ピアノ

桐朋学園子供のための音楽教室を経て、宇都宮短期大学音楽学部卒業。ピアノを夏目芳徳、杉江とみえ、武田洋、斎藤ゆり各氏に師事。草津夏期国際音楽祭マスタークラス修了。同音楽祭内・選抜演奏会に出演。10年ほどの指導の後、ドイツ留学。カールスルーエ国立音楽大学ピアノ専攻にてM.ウーデ、M.シュタング氏に、又ケルン大学教授A.シピリ氏に師事。北信越ピアノオーディション、長野県知事賞（大賞）受賞。現在は演奏と後進の指導、コンクール審査員も務める。

## 鑑賞ワークショップについて

今回は後半に長めの曲をお聞きいただくため、最後までお楽しみいただけるよう鑑賞のワークショップを計画いたしました。作品の一部を取り取り、聞こえる音からどんな印象を受けるかについてお話ししていきます。これまでアート部では、絵画、写真の作品についてこのような鑑賞を行つて来ましたが、音楽について行うのは初めての試みとなります。どんなお話しができるか、企画者も楽しみに思つております。